

Kanagawa Library Association

巻頭言 図書館司書と図書館長	
～図書館はこうしてつくられる～	1
特集：神図協 この1年の動き	
地域資料委員会、大学図書館協力委員会	2
研修委員会、広報委員会	3
研修会レポート 窓口サービス「図書館における問題利用者の対応」	4
連載：わたしのイチオシ 『オオカミの護符』等、小倉美恵子さんの作品	4

図書館司書と図書館長

～図書館はこうしてつくられる～

研修委員長 岩田 孝
(伊勢原市立図書館長)

神奈川県図書館協会の研修委員長をさせていただく中で、県内の図書館を訪問することがしばしばある。公共図書館にしる、大学図書館にしる、専門図書館にしる、図書館はどこも独特の雰囲気があり、「知の宝庫・知の拠点」としての輝きを放っている。それは館の歴史であったり、長年収集してきた蔵書であったり、趣ある建物であったり、人であったりもする。

研修委員会では年間10回の研修会を行ってきたが、図書館の現場で働く図書館司書たちの熱い思いを断片的に聞くことができた。図書館はこうあるべき、うちはこうしている、というような図書館に対する真剣な思いがあれば、いい意味でのこだわり、専門職としての誇り、蔵書の構築に対する思いなどがある。ときに、そっと利用者寄り添い、温かく見守る図書館司書の姿もあった。いつも利用者サービスの最前線で働く重要な仕事であると改めて認識した。

一方、図書館長は、以前は図書館法の規定で図

書館司書の資格を有していなければならなかった。しかし、法が改正され、現在は図書館司書の資格を有する図書館長が少数派となり、一般職の図書館長が増えてきている。そんな中で、よく図書館長会議に出席することがある。これも熱い人の集まりだ。単に人事異動で来たのではないのか。そこまで熱くならなくてもいいのではと思うときがある。図書館長の話題は尽きない。

図書館は不思議な空間である。本との出会い、人との出会いがあり、多様な職種の人が多様な形で交差する。図書館には、図書館司書や図書館長を熱くさせるものがある。図書館に求めるものは利用者によって様々である。ある人は専門性であったり、安らぎであったり、居場所であったりする。多様なニーズに応えられるのも、熱き思いがあるからかもしれない。図書館司書や図書館長をはじめ、様々なスタッフが図書館を支え、知の宝庫・知の拠点をつくりあげている。

地域資料委員会

地域資料委員会は、平成 27 年 4 月から前身であります郷土・出版委員会の名称、目的等を変更し、新たに発足したものです。公共図書館、大学図書館、専門図書館からの 8 名の委員で構成されています。

平成 27 年度は、神奈川県内における地域資料のデジタルアーカイブの状況を把握することとしました。デジタル化することにより、公開やネットワーク等を通じた利用も容易になる点や、資料を精緻にデジタル化することによりオリジナル資料へのアクセスの必要性を減らすことができるため、将来的にも資料の傷みを最小限にすることが可能になります。今後、県内の図書館でもデジタル化が進むことが考えられるため、各図書館の参考になる調査ができればと考えたところです。

調査票は、時系列に沿って、「デジタル化について」「デジタルアーカイブ構築時の状況について」「デジタルアーカイブ稼働後の運営について」「他機関との連携の有無」という質問項目にし、回答しやすいように、できるだけチェックのみで回答できるようなものを心がけたつもりです。

平成 28 年の 1 月に、神奈川県図書館協会加盟の 75 の公立図書館、14 の専門図書館、43 の大学図書館に調査票をお送りしたところです。現在は、各図書館から送られてきた回答を集計しているところです。

今後は、この回答を基に、神奈川県下の図書館のデジタル化の進捗状況がわかるような報告書にまとめていければと思います。

[委員長 鎌倉市中央図書館 菊池 隆]



大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会は、神奈川県図書館協会への神奈川県内大学図書館相互協力協議会（KULC）の統合によって、大学図書館委員会に「協力」を加えた新たな名称のもとに活動を継続しています。平成 26 年 12 月 9 日神奈川県図書館協会臨時総会で統合が承認され、平成 27 年度総会における協会規程改正の承認により、KULC は本協会に統合され、発展的に解消しました。KULC が実施していた研修事業は研修委員会に継承され、KULC 加盟大学の学生が他の加盟大学図書館を、共通閲覧証により簡便に利用できる制度は、本委員会が引き継いでいます。

この統合の経緯と、KULC のこれまでの活動概要は、「神奈川県内大学図書館相互協力協議会会報」第 53 号・最終号(平成 27 年 3 月)に掲載されています。会報は、神奈川県図書館協会のサイト¹⁾の「大学図書館協力委員会から」により公開されていますのでご覧ください。また、「神図協会報」²⁾第 242 号(平成 25 年 4 月)、第 246 号(平成 26 年 4 月)、第 249 号(平成 27 年 1 月)、第 250 号(平成 27 年 4 月)では、統合に関わる 2 年間の経緯が紹介されています。

本委員会では、調査研究テーマを 2 年度毎に定め、大学図書館が抱える時宜を得た課題に対して調査・研究し意見交換と共通認識を深め、図書館活動に繋げています。今期(平成 27～28 年度)は、『相互協力の促進』をテーマに取り上げています。本年度は、統合後の会務整理を行い、協会の支援を得て、KULC の刊行物、会員館一覧(相互利用マニュアル)、及び、共通閲覧証の様式などを協会のサイトに移行・公開し、相互協力の年間の実績、各館の共通閲覧証による相互利用の注意事項などを、Web で公開されている『神奈川の図書館』に新たな項目として追加しました。

本委員会では、KULC との統合による県内の大学図書館間の協力活動における一定の範囲での簡素化が実現しました。今後は、施設や蔵書の館種を超えた相互協力の促進により、神奈川県図書館協会における活動の大きな柱となることも期待されます。

1) <http://www.kanagawa-la.jp/>

2) <http://www.kanagawa-la.jp/report/>

[委員長 鶴見大学図書館 長谷川 豊祐]

研修委員会

研修委員会では、10回の研修会を開催しました。研修テーマ、講師、開催日は以下のとおりです。詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<http://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師(敬称略)	開催日
第1回	国立国会図書館東京本館(見学研修)	6/30
第2回	障害者サービス「公立図書館では合理的配慮が義務化！」 野口 武悟(専修大学文学部教授)	9/2
第3回	海老名市立中央図書館(施設見学)	10/14
第4回	帝京大学:「共読ライブラリー」の今とこれから 中嶋 康(帝京大学 学術情報グループ)	10/22
第5回	帝京大学メディアライブラリーセンター(施設見学)	10/22
第6回	第17回図書館総合展フォーラム「この一冊を、必要とする読者に届けたい」 内野 安彦(常磐大学等非常勤講師) 成瀬 雅人(原書房代表取締役社長) 市川 紀子(有隣堂経営企画本部社長室)	11/12
第7回	児童サービス「病院内の子どもたちへ本を届ける」 塚田 薫代(静岡県立こども病院図書室司書) 上藤 美紀代(NPO法人ヒューマン・ケア支援機構副理事長)	11/26
第8回	子ども読書活動推進フォーラム 「絵本をとりまく変化と対応」 金柿 秀幸(㈱絵本ナビ代表取締役社長) 事例発表:金柿 秀幸、水曜会	12/5
第9回	窓口サービス「図書館における問題利用者の対応」 千 錫烈(関東学院大学社会学部准教授)	1/20
第10回	神奈川県立図書館におけるデジタルアーカイブ 石原 眞理、白石 智彦(神奈川県立図書館)	2/5

今年度の研修会は、国立国会図書館の見学研修から始まり、障害者サービス、児童サービス、窓口サービスをはじめ、大学図書館の取り組みなど、多様な内容で開催でき、多数の方に御参加いただきました。

この研修が今後の業務に少しでも御活用いただければと思います。

研修会にあたりまして、会場提供や講師派遣などさまざまな形で御協力いただきました加盟各館並びに関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

[委員 伊勢原市立図書館 鍛代 喜久男]

広報委員会

広報委員会では協会報の発行、ホームページの管理、図書館総合展でのブース展示を行いました。今年度の活動内容は以下の通りです。

1 協会報の発行(年4回発行)

年3回ほど開催される広報委員会のほかに、協会報の編集・校正等のやりとりをホームページやメールなどを活用しながら行うことで編集会議の回数を少なくし、質を落とさずに効率よく発行できるよう心がけました。

○251号(7月1日発行)

平成27年度神奈川県図書館協会総会報告
わたしのイチオシ「栄花物語(奈良絵本)」(東海大学付属図書館中央図書館)

○252号(10月1日発行)

特集:鎌倉市図書館振興基金について
わたしのイチオシ「柳田國男『生れる言葉』」(県立神奈川近代文学館)

○253号(1月1日発行)

特集:第17回図書館総合展フォーラム報告・ブース展示報告
わたしのイチオシ「日本国有鉄道労働組合婦人部資料」(県立図書館)

○254号(4月1日発行)

特集:神図協 この1年の動き
わたしのイチオシ『『オオカミの護符』等、小倉美恵子さんの作品』(川崎市立幸図書館)

2 第17回図書館総合展におけるブース展示

今年度は11月10日(火)から12日(木)まで、パシフィコ横浜で開催されました。神奈川県図書館協会のブース来場者は3日間で延べ381人でした。

展示ブースでは、協会の紹介や各委員会の概要・活動内容をパネルで紹介するとともに、協会刊行物の展示及び購入申込受付や、加盟館からの各種チラシも配布しました。また昨年に引き続き、手作りブックスタンドの展示及び型紙の配布も好評で、協会の存在を広くPRするきっかけとなりました。ブース内には図書館関係者だけでなく、一般の来場者も見受けられ、協会の活動に関する質問や加盟館について関心を寄せる声も聞かれました。日常的に行うことの難しい協会の広報活動を今回の図書館総合展を通してできたことは、広報委員会にとって、とても良い機会となりました。

[委員 横浜中央図書館 矢吹 紗綾子]

研修会レポート

窓口サービス 「図書館における問題利用者の対応」

(平成 28 年 1 月 20 日実施)

昨年度、好評をいただいた本研修は、今年度も定員を大きく上回るお申込みをいただき、このテーマに対する皆さんの関心の高さを伺うことができました。簡単ですが、研修内容について報告させていただきます。

今年は1月20日(水)に神奈川県ライトセンターで開催しました。講師は、昨年同様、関東学院大学准教授の千 錫烈(せん すずれつ)先生です。

研修は、第1部の講義と第2部のワークショップに分けて実施し、第1部は、「図書館における問題利用者について」というテーマで講義をしていただきました。「安全・安心な場所」と認識されていた図書館が、現在では傷害事件や個人情報の流出、自然災害など様々なリスクにさらされているという現状を、公共図書館に勤務した経験も交えながら紹介し、リスクマネジメントの必要性を述べられました。また、後半は怒る利用者への対処法的を絞り、具体的な対応について紹介がありました。たとえば、深呼吸をして間を取る、穏やかで親しみやすい対応を行うといったことや、怒った利用者とは議論をしないと聞いた傾聴法、「優位」と「回避」による対応法などです。また、

利用者の不満を個人的な批判として受け取らないというストレス対処行動についても紹介してくださいました。

第2部は、1グループ約9名程度で5グループに分かれ、グループワークを行いました。内容は、事前に提出いただいた、各図書館で困っている窓口対応の事例を共有し、対処方法を考えるというものです。30分程度でしたが、どのグループも活発な意見交換をしていました。このグループワークは、問題を解決する方法が見つかるものではありませんが、同じような事例に他の館がどのような対応を取っているのか情報共有し、自館で参考になりそうなことは、詳しく聞き取るなど、有意義な時間となったようでした。

研修後のアンケートで、グループワークはもう少し時間が欲しかったという意見が多くありました。次回はこのグループワークの時間を長くとり、より多くの事例に触れ、県内の図書館がよりよい窓口サービスができるよう、みんなで考え、学ぶ場にしていきたいと思いました。

(横浜市中央図書館 飯塚 由香)

連載：わたしのイチオシ

川崎市立図書館 『オオカミの護符』等、小倉美恵子さんの作品

市内中部の武蔵小杉など、再開発の盛んな川崎市ですが、この土地に根付いてきた民俗・風習を描き、話題を呼んだ作品があります。

さらさらプロダクション製作の映画『オオカミの護符』と『うつし世の静寂(しじま)に』。そして両作品のプロデューサー・小倉美恵子さんによる著作『オオカミの護符』です。

まだ里山が残る市内北部の宮前区。ここに生まれ育った小倉さんは、生家の土蔵に貼られていた護符にふと興味を持ち、調べ始めます。描かれた狼「オイヌサマ」とは何か、この護符はどこから来たのか。調査が進む中で、小倉さんはこの土地に伝わる山との繋がり、風土に根ざした信仰、人々が培ってきた絆に気づきます。

平成 27 年 11 月に開催された川崎市立図書館読書普及講演会では、「消えゆくもう一つの川崎を描く」というタイトルで講演をして下さった小倉さん。長年住み続けてきた住人にも、最近転入し



上右 文庫本『オオカミの護符』
上中 DVD『うつし世の静寂に』
左 講演会での小倉さん

てきた新住民にも、懐かしさを感じると同時に新たな発見のできるお話をして下さいました。

川崎という郷土に愛着の湧く作品を、川崎の図書館で読める。とても幸せなことだと、嬉しく思います。(川崎市立幸図書館 天本 みつえ)